

USBオーディオプロセッサSE-U 55SX IIを使用してPCに録音ができないとき、本ヘルプシートをご利用ください。

—各項目にチェックを入れ、接続・設定が正しいかご確認ください。—

☐ 再生機器(カセットデッキ・レコードプレーヤー等)との接続は正しいですか？

SE-U55SX IIと再生機器が正しく接続されているか、確認する。

再生機器が、カセットデッキ等のアナログ機器の場合、SE-U55SX IIの【LINE IN】に接続されているか、CDプレーヤー等のデジタル機器をデジタルケーブルで接続する場合、【DIGITAL IN】に接続されているか、ご確認ください。(取扱説明書P13～P14参照)

☐ SE-U55SX II 本体のINPUTの切替スイッチの位置が正しいですか？

アナログケーブルによる接続の場合は、SE-U55SX II 本体のINPUTの切替スイッチが【LINE】に、デジタルケーブルによる接続の場合は、【DIGITAL】になっているか、ご確認ください。(取扱説明書P25参照)

☐ SE-U55SX II から再生機器の音声が聞こえますか？

上記の接続を確認した後、SE-U55SXのPHONES端子に接続しているヘッドホン、もしくはLINE OUT端子に接続しているアンプ内蔵スピーカー等から、再生機器の音声が再生できているかご確認ください。(取扱説明書P13参照)

☐ OSの設定は正しいですか？

・Windows 7/VISTAの場合

【スタート】→【コントロールパネル】→【サウンド】を開きます。

【サウンド】パネルの【録音】タブ内で、【SE-U55SX Audio】が表示されており、緑色のチェックが付いているかをご確認ください。

もし、チェックが付いていない場合は、【SE-U55SX Audio】を選択し、【規定値に設定】ボタンをクリックして緑色のチェックを付けてください。(取扱説明書P17～P18参照)

・Windows XPの場合

【スタート】→【コントロールパネル】→【サウンドとオーディオデバイス】のプロパティを選択し、【オーディオ】タブのところで「音の再生」「録音」の「規定のデバイス」がそれぞれ【SE-U55SX Audio】になっているか、ご確認ください。

もしなっていない場合は、【SE-U55SX Audio】をクリックし、【適用】ボタンをクリックして設定を変更してください。(取扱説明書P19参照)

□ 録音ソフトDigiOnSound6 L.E.の設定は正しいですか？

①DigiOnSound6 L.E. を起動し、【ファイル】メニューから【新規作成】を選びます

②【ミキサーコントロール】ウィンドウを使って、以下の設定を行います。

※【ミキサーコントロール】ウィンドウが開いていない場合は、【表示】メニューから【ミキサーコントロール】の項目にチェックを入れてください。

ステレオ(左右が独立した音声)で録音する場合、【ステレオ】にチェックします。

モノラル(左右が同一の音声)で録音する場合、【モノラル】にチェックします。

【ミキサーコントロール】ウィンドウの【R(レコード)】ボタンをクリックします。

※【モニター】チェックボックスをチェックすると、録音レベルをモニターできます。

③アナログによる録音の場合、SE-U55SX II 本体の【INPUT LEVEL】のツマミを調節することにより、レベルの調節が行えます。

※デジタルによる録音の場合、レベル調節は行えません。

④【コントローラー】画面を使って録音します。

※【コントローラー】ウィンドウが開いていない場合は、【表示】メニューから【コントローラー】の項目にチェックを入れてください。

⑤【録音】ボタンをクリックすると、録音待機状態となります。

機器の再生をはじめ、録音したいところで【一時停止】ボタンをクリックすると録音を開始します。

一時停止するには: 録音中に【一時停止】ボタンをクリックします。

ボタンが押されたポイントで録音が待機状態となり、【一時停止】ボタンをクリックすると再び録音を開始します。

録音を終了するには:【停止】ボタンをクリックします。

⑥録音が終了すると、トラックに波形データが表示されます。

⑦保存するには、「ファイル」メニューより、「名前を付けて保存」または「書き出し」を選択します。

(取扱説明書P44～P49参照)

「名前を付けて保存」について:「保存」すると、編集した状態のDigiOnSound ファイルとして保存されます。

つまり、保存したファイルは、DigiOnSound 形式に対応したソフトでしか扱うことができません。

「書き出し」について: DigiOnSound6 L.E. で録音・編集したファイルは、「書き出し」でWAVE やWMA、MP3 などのサウンド形式に変換することで、他の多くの音楽再生プレーヤーでも再生することができるようになります。

※録音したデータの他のプレーヤーソフトを使用しての再生や、CD-Rライティングソフトを使用してCD-Rへ書き込みをする場合は、「書き出し」を選択してください。

(取扱説明書P51参照)